

審議の主な論点案

【本検討部会における審議の前提として考慮すべき点】

- 我が国における研究のデジタルトランスフォーメーション（DX）及び教育のDXの取組の方向性
- 国立国会図書館の「デジタルシフト」（出版物のナショナル・デジタル・アーカイブの構築及び絶版等入手困難資料のインターネット送信の拡張等の動き）
- これまでの大学図書館における電子化への対応等に関する取組

【上記の前提を踏まえた主な審議の論点】 案

（1）今後の大学図書館に求められる教育研究支援機能や新たなサービスについて

- 学術情報流通や大学における学術情報基盤整備という観点から見て、大学図書館の不易な機能は何か。
- 研究DXや教育DXの取組が進行している中で、大学図書館に新たに求められる機能は何か。
 - ＞ 既存の資料収集という役割から、大学内で生成された成果の発信という役割にシフトしているのではないか。
- 大学図書館がそれらの機能を果たすために行うべき新たなサービスは何か。
 - ＞ 研究DXの取組で注目されている研究データの管理・利活用において、大学図書館が果たすべき（もしくは果たすことができる）役割やサービスとは何か。また、大学内のどのような部署と、どのような連携が求められるか。
 - ＞ 教育DXに関連した著作物の利活用において、大学図書館が果たすべき（もしくは果たすことができる）役割やサービスとは何か。また、大学内のどのような部署と、どのような連携が求められるか。
- 大学図書館がこれまで果たしてきた機能・サービスについてはDXの下でどのような変革が求められるか。
 - ＞ これまで主に大学図書館が行ってきたサービス（資料のデジタル化、ILL、機関リポジトリ等）をどう捉え直していくべきか。
 - ＞ 学内他部署の連携や大学図書館間の連携によって相乗効果を発揮する機能やサービスは何か。
- 大学図書館の在り方の変容に対する大学教員・学生や社会の理解をどのように得ていくか。

(2) 上記支援機能やサービスを実現するための、情報科学技術及び「場」としての大学図書館の効果的な活用について

- 「多様な学術情報資源の共有等により大学図書館が相互に連携してデジタル・ライブラリー」(情報委員会「提言」)を実現するためのシステムの基盤(プラットフォーム)はどのようなものか。
 - ＞ 新たな機能やサービスを実現するためにプラットフォームに求められる要件は何か。またどのような課題があるか。
- (現在の情報科学技術を活用しても実現できない)大学図書館の「場」としての価値とは何か。
- 情報科学技術によって作られるバーチャルな「場」をどのように考えるか。どのような場面で、どのような取組において、バーチャルな「場」の効果が発揮されるのか。また、リアルな「場」とバーチャルな「場」の間には、それぞれの長所、短所を踏まえてどのような補完関係が成り立つか。

(3) 上記機能やサービスの実現に求められる人材について

- 今後の大学図書館に求められる教育研究支援機能や新たなサービスに携わる人材は、どのようなスキルを備えるべきか。
 - ＞ これまで備えられてきたスキルをどのように転換すべきか
 - ＞ 例えば研究データ管理において、これに関わるさまざまな人材(URA など)とどのように役割を分担していくべきか
- 必要なスキルを持つ人材を確保するための方策は、どのようなものが考えられるか。
- これまでの大学図書館の人材が新たに必要となるスキルを修得するためには、どのような仕組みが必要か。

(4) 大学図書館間の効果的な連携について

- DX やオープンサイエンスという流れの中で、大学図書館の役割を最大限に発揮するために、大学図書館間でどのような連携方策をとるべきか。
- 大学図書館が相互に連携したデジタル・ライブラリーとなるために、どのようなモノ・コトを共通化できるか(すべきか)。